

推進協議会今年度の顔ぶれ

No	氏名	性別	住所	摘要
1	佐藤 一雄	男	尼瀬	☆
2	佐藤 幸一郎	男	尼瀬	☆
3	女柳 勝治	男	尼瀬	☆
4	佐藤 悦郎	男	尼瀬	☆
5	山崎 正彦	男	尼瀬	☆
6	相沢 貞夫	男	尼瀬	☆
7	磯野 智子	女	住吉町	☆
8	安達 祐三	男	石井町	☆
9	丹羽 弘昭	男	羽黒町	☆
10	中川 惣吉	男	羽黒町	☆
11	石川 豊	男	羽黒町	☆
12	林 波津雄	男	鳴滝町	☆
13	佐藤 幸雄	男	鳴滝町	☆
14	磯野 猛	男	住吉町	
15	曾根 良子	女	羽黒町	
16	大谷 茂	男	別ヶ谷	監事
17	村上 聖和	男	羽黒町	
18	磯木 ヨシエ	女	石井町	
19	加藤 高康	男	尼瀬	
20	遠藤 良法	男	羽黒町	
21	細木 勝子	女	井鼻	会計
22	長谷川 隆	男	木折町	
23	佐々木 貞治	男	羽黒町	
24	納谷 稔	男	川西	
25	渡辺 常侃	男	井鼻	会長
26	村越 隆夫	男	住吉町	副会長
27	小林 等	男	鳴滝町	監事
28	小林 八重子	女	井鼻	
29	高坂 一弘	男	羽黒町	
30	関根 一祥	男	石井町	副会長
31	宮下 登一	男	尼瀬	
32	石井 弘	男	木折町	
33	小田野 一男	男	尼瀬	
34	松永 透	男	乙茂	

☆は、地区推薦委員

○空家・空地情報連絡調査
空家・空地の現状と街並み全体

熱心に取り組んでいるところを視察研修したいと思います。

三回(四・八・一月)発行します。

Aグループ

は、次のとおりです。

今年度の各グループの事業計画

出雲崎妻入りの街並景観推進協議会の総会を六月に開催し、年間の事業計画を決定しました。

○先進地視察

の現状を常に把握していきたいと思えます。

Bグループ

かわらばんグループ

○啓発紙の発行

かわらばん『妻入り』を今年も

○おもしろ看板の設置
各町内に一枚を目標にこの看板を設置し、出雲崎の昔話を住民、また町を訪れた人たちが楽しく『妻入りの街並』を歩くことができるとの趣旨で今年度も看板を製作し、設置を予定しています。皆さんの知っている昔話がありましたら、情報をお寄せ下さい。また、看板の設置希望がありましたら、あわせてお知らせ下さい。

お知らせ

協議会の活動状況、街並の歴史、先進地の活動状況、各位からのご寄稿等を満載します。
○歴史の道ウォーク
出雲崎総合大学との共催で今年二十八日に開催します。昨年は、町で登録有形文化財第一号となつた「みよや」さんを見学しました。今年は、「くるまや旅館」さん所有の三角堂や亀田鵬齋等の遺墨を見学します。

この度の「七・一三梅雨前線豪雨」により被災された方におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

今年度予定しておりました「街並みギャラリー」は、都合により取り止めとさせていただきます。今年度は、範囲を羽黒町まで広げ、東京芸術大学卒業生で作画活動をしている方からも協力していただける予定でしたが・・・来年にご期待下さい。

生まれ故郷と重ねて想う

『妻入りの街並』

県立出雲崎高等学校

校長 渡邊謙治

この四月より出雲崎にお世話になっていきます。磯の香りと海の幸、歴史的な風情を今に伝える出雲崎町は私の故郷と景観が似ており、懐かしく想っています。海岸に沿って帯のように長く連なる独特な『妻入りの街並』は、糸魚川・西頸城の町並みにも似通ったところがあり気に入っています。

私の生まれは富山県との県境に接する新潟県の西の玄関口、青海町・親不知です。少し紹介しますと、アルプスの北端が日本海になだれ落ちる断崖絶壁の親不知・子不知で、北国街道の最大難所・天下の険として全国的に知られています。幼い頃から日本海の新鮮な魚介類に舌鼓を打ち、能登半島を一望し、沖に沈む夕日を眺めながらすごしてきました。

隣の糸魚川市に『良寛研究』で

世に広めた「相馬御風」さんがお生まれになっています。

俳人「松尾芭蕉」さんは元禄二年の七月に越後路を歩行し、青海町市振で『一家に遊女もねたり萩と月』を詠んだと『奥の細道』に紹介されています。

当地、出雲崎町は『良寛生誕の地』で、相馬御風さんと関係があり、良寛記念館から見下ろした日本海と佐渡を一望できる雄大な景観も重ね合わせてしまえます。

また、俳人「松尾芭蕉」さんは「奥の細道」で代表的な句の一つ『荒海や佐渡によこたふ天の河』と詠み出雲崎を紹介しています。歴史と伝統文化が融合された町『妻入りの町並』は、貴重な景観であります。人の温もりが感じられる景観がそこにあります。人情と共に大切にしたいものです。



文化財を維持する力

出雲崎小学校

校長 平澤 平四郎

良寛記念館入り口を過ぎて、「オー」海が見える佐渡が見える。台地の端で、道は鋭く曲がり下る「オー」夕日が目を射る。思わずブレキを踏む。眼下に黒々と同じ造りの細長い家並を見る。またしても「オー」と声が出る。断崖と、白波寄せる海岸線の間に、細長く続く独特の家並、妻入りの街並を見る。オーの声も出ない感動が走る。ここが出雲崎か……

私が横浜から長岡にやってきて最初に海に出たのがここ出雲崎であった。職もなく、雑魚釣りに明け暮れる日々が一年ほど続いた。以来三十五年、四季折々、通った出雲崎港である。そのたびに眺めた家並が「妻入りの街並」であるとは、しばらく後に知った。

その後、石地回りを覚えた。尼瀬漁港を巻いて妻入りの街並に入り、狭い道を行くと直角に二度曲

がる。(寺の多い街だな・裏に崖が迫る：家並の主は今も健在か、生業や如何に……。)どちら回りで帰るかは、その日の釣果と気分による。

妻入りの街並を通るたびに考えた。同じ形の家を隙間なく並べることの利点は何か、平等な造りは積極的合意か、別の造りを許さない強制力か、狭い隙間で大工は外壁をどう工事するのか、壁を隣家と共有する家もあるな、音に気を遣うだろう……。室内の間取りも似ているのかな、内装で個性を出すのかな、金持ちは高級な材料を使うのかな、おいおいと皆さんにお聞きして、疑問を晴らしたいと思う。街並は博物館に収まらない。保存するとは、生かし使い続ける子どもを育てることだろう。



第四銀行出雲崎支店

支店長 山野上 実

第四銀行出雲崎支店にこの七月五日に着任いたしました。右も左もわからない状態で、当地にまいりましての感想程度となつてしまひますが、お許しいただきたいと思ひます。

新潟から車で来てまず目にしたことは、国道三五二号線から海岸方向へ下る際の絶景でした。新潟で見えるものと違った色の濃い日本の雄大さ、その海岸に広がる「妻入りの街並」は強烈かつ鮮明に印象に残りました。

「天領の里」から「歴史国道」に入り、間口が狭く奥行きのある独特の家並みが延々と続き、その中に「芭蕉園」「良寛堂」といった歴史的記念碑が点在する街並は歴史と文化の情緒を十分感じさせ、道端にポツンと点在する赤いポストは時代がタイムスリップしたようでした。いつまでもこの街並を

残しておきたい、より多くの人にこの感動を味わってもらいたい、そんな思いが強くなりました。

第四銀行は当地に營業を開始して今年でちょうど八十年になります。この歴史ある「妻入りの街並」の一員として、今後も街並の景観の維持、地域の活性化にご協力できればと考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。

妻入りの街並（二十二）

住吉町
磯野
猛

人物往来（七）

安政三年（一八五六）四月、総勢十八人の調査隊で樺太東海岸から西海岸のクシュンナイに出て、そこから北上ライシカ湖を探索、六月三十日クシュンナイに戻り、南下して七月二十一日シラヌシに到着、八月四日宗谷に渡り、九月八日に箱館に到着しました。

当時としては、冒険も大冒険と
いうような大事業であつたと思わ

れます。北前船による事業実績と必要な知識及び財力も烏井権之助にはあつたからと思われまゝ。

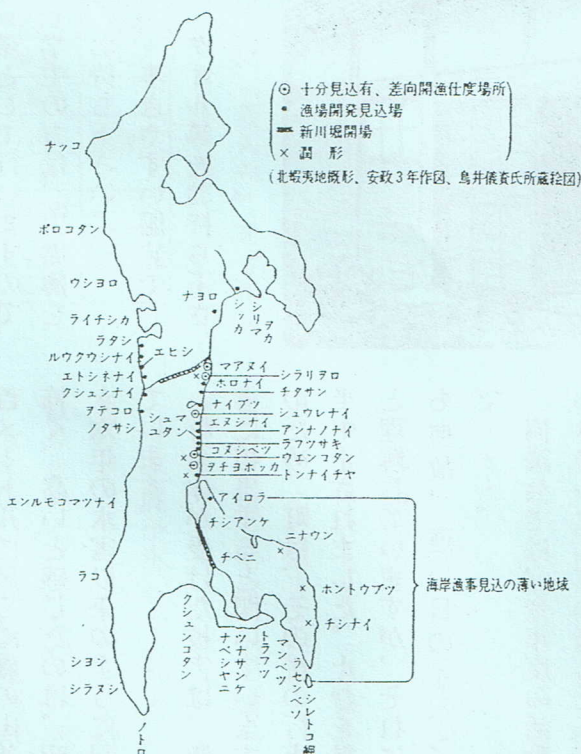
權之助は、この調査によつて、北蝦夷地に開発可能な漁場が十五カ所あること、樺太奥地の開発統治法として、

二 東海岸のマヌイより西海岸のクシユンナイまで背梁山脈に横断道路を開くこと。

三 北蝦夷地の奥地一帯を幕府直轄の直捌地として統治を敏活に行ふこと。

そして開発のためには、**国元**か

安政3年 鳥井權之助北蝦夷地漁場開發見込場所



(中村義隆「幕末期越後豪農層の北蝦夷地(樺太)漁場開拓」『日本海地域研究第8輯』所収より転載)

一 千ベシヤニより河川を利用してトンナイチヤ湖まで運河を開き航海の危険な知床岬を迂回する距離を五分の一に短縮すること。

ら人夫を派遣する一方、土着の住民も雇い入れて行うことなどの意見を姉婿の松川弁之助を通じて安政三年九月箱館奉行に上申してい

ます。

箱館奉行、堀織部正は、権之助の手腕を認め、幕府に働きかけて、上申書を採用するとともに権之助を北蝦夷地直捌所差配に任命しようとして安政三年（一八五六）十月出雲崎代官、高木清左衛門を通して町方の意向を聞きただしました。その矢先の十一月十一日夜、権之助の家から出火し、「下木戸より二十間ばかり下町残り、上町は木戸まで延焼、家数千三十七軒、土蔵数二十三ばかり落ち、寺数十六カ寺、宮数五カ所焼失という町の大半を焼いた敦賀屋火事があり、そのせいもあって代官、高木清左衛門からの返書は、名主役のままでは、町方の役人たちが承知しないことの文面で幕府へ差し出されました。

その間、代官と箱館奉行、町方役人とのやりとりが交わされましたが結局権之助は、名主役を返上して、安政四年七月北蝦夷地差配人に任命されました。

歴史の道ウォーク

参加者募集！

風情のある街並、歴史の話を聞きながら、あなたも歴史の街並みを家族で、友達と夏の思い出づくりとして歩いてみませんか。故郷を再発見する機会です。

今回は、「くるまや旅館」さんの『三角堂』を見学する予定です。

三角堂は、もともとは、郷土史家佐藤吉太郎（耐雪）が家の裏山に立てた建物ですが、昭和三十六年の大水害の時、流されたものを拾い集め、それを現在のところに移築したものです。名前のとおり、建物、畳、天井も三角の形をしています。お楽しみに！

《日時》 八月二十八日（土）

午前八時 海岸公民館出発

《コース》 海岸公民館を出発し、

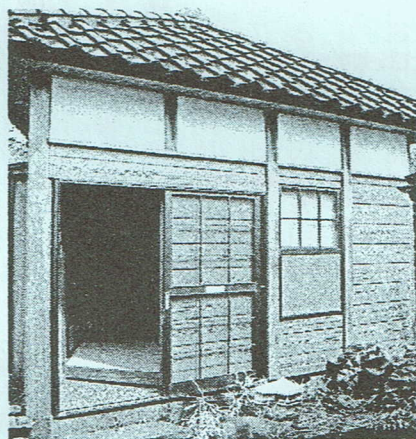
「くるまや旅館」さんの三角堂等を見学し、天領の里で解散です。

《その他》・参加費は、無料です。

・天領の里到着後、希望の方は、出発点までお送りします。

・総合大学の講座の一環として行いますので、学生の方は、出席簿をお持ち下さい。

・歩きやすい服装で、タオル等をお持ち下さい。



あとがき

この度の七・一三水害で亡くなられた方、被災された方々に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

小・中学生を送り出して間もな

く新道は、川になりました。溢水が滝となって崖を落ち、あつと言う間に下の家々を襲う、唯々恐ろしく呆然と見ている始末でした。百メートルに足らぬ磯の山並みを怖く、高いと感じたのは、昭和三十六年の水害以来のように記憶しています。

町全体が受けた被害は、激甚災害に相当すると聞いています。そのため、町は、その後の行事を大半中止されました。止むを得ないと理解していますが、それにしても何故、遠い日のイベントまで・・・。

協議会では、今年度の活動計画のメインにしてみました『街並みギャラリー』を中止することになりました。『天領まつり』を中日に三日間を予定していましたので、申し訳ありませんが、ご理解をお願いいたします。ほかの事業は、計画どおり実施しますので従前のとおりご協力をお願い申し上げます。

羽黒町 佐々木 貞治